

基小だより

明日咲くつぼみ



あま市立甚目寺小学校

平成 28 年度 第 16 号
平成 29 年 3 月 14 日

学校評議員会の開催 — 学校評価と次年度に向けて —

3 月 1 日 (火) に学校評議員会を開催しました。本校の評議員は、学校関係者と地区在住者の 4 名で構成されています。年間通して学校の教育活動に接していただいています。評議員会では、学校教育活動や学校評価をもとにご意見を伺っています。以下は学校評価です。

1 評価概要

(1) 評価形式：無記名 各項目 4 段階評価

4 とても思う 3 少し思う 2 あまりそう思わない 1 全くそう思わない

※ 平均評価から傾向を考察

(2) 評価者：4～6 年児童、保護者 (PTA 役員)、教職員

(3) 評価時期：平成 28 年 12 月

2 評価結果

(1) アンケート結果

	項 目	児童	保護者	教師
学校運営	子どもたちは楽しい学校生活を送れている	3.38	3.52	3.42
	家庭への連絡や情報提供がきちんと行われている	3.50	3.12	3.21
学校行事	運動会は、子どもたちがいきいきと活動し、楽しく参加できた	3.52	3.76	3.68
	総合学習発表会は、適切に参加しやすかった		3.33	3.26
学習指導	教師は、わかりやすい授業づくりに努めている	3.56	3.26	3.26
	教師は、授業に集中できるような工夫をしている	3.32		3.16
	教師は、子どもが思いや考えを積極的に発表する工夫をしている	3.09		3.05
生活指導	子どもたちは元気よくあいさつをしている	3.04	3.05	3.37
	教師は、子どもの悩みや相談をしっかりと聞いている	3.25	3.05	3.32
	教師は、いじめのない学級づくりに努めている	3.46	3.21	3.58
	教師は、個別に支援が必要な子どもへの配慮に努めている			3.21
人権	子どもたちは、学級の人や友だちを大切にしている	3.47	3.55	3.37
	子どもたちは、言葉遣いに気をつけて生活している	3.07	2.86	3.26
環境	学校は、安心して過ごせる環境になっている	3.23	3.33	3.58
	子どもたちは、そうじなど環境美化に努めている	3.38	3.00	3.26
	安全に気をつけて登下校している (安全指導に努めている)	3.54		2.95
防災	学校で災害が起きたとき、安全に避難できる	3.22		
	学校外で災害にあったときの避難について、家族と話し合ったり打ち合わせをしたりしている	2.63	2.93	

(2) 考察

○評価が高かった項目

- ・学校生活については、三者ともに概ね良好に捉えているという結果となりました。
- ・運動会・総合学習発表会といった学校行事は三者とも評価が高く、生き生きと活動する子どもたちの様子が伝わるとともに、子どもたちも意欲的に取り組んでいることが伺えます。
- ・分かりやすい授業づくりについて児童の評価が高いのは、これまでの教師の様々な手立てが子どもたちに受け入れられていると考えられます。
- ・コミュニケーションスキルを高めるための指導の成果が表れ、友達を大切にして生活する態度が養われています。
- ・いじめのない学級づくりについては、人権教育の取り組みが着実に積み重ねられていることであると思われます。

●改善や工夫が求められる項目

- ・自分の思いや考えを発表するのが苦手だと考える児童が、まだまだ多く、シンキングツールなどを取

り入れ、指導方法を工夫しようとしていますが、成果がなかなか出ないでいるのが現状です。

- ・元気なあいさつについては、小さい声の児童がまだ多く、昨年から横ばい状態である。
- ・言葉遣いの指導には課題が多く、特に保護者が心配している様子がうかがえます。
- ・児童は掃除にきちんと取り組んでいると考えている割合が高い一方で、保護者は美しい環境になっていると感じている割合がやや低く、掃除方法の見直しや全員が取り組める体制作りが必要と考えます。
- ・児童はそれほど感じていませんが、登下校の安全指導をもっとしなければならぬと職員は考えています。
- ・学校外で災害に出会ったときの対処の仕方に、児童も保護者も不安があることがわかります。防災教育の充実が求められます。

(3) ESDについての意識調査【平成 29 年 2 月】

数値は「思う」と答えた 6 年児童 (%)	
甚目寺をすばらしい町、よい町だと思いますか。	68.7
甚目寺を自分の「ふるさと」として、大切にしたいと思いますか。	72.7
甚目寺の現在や未来のために、何か考えたり行動したりしたいと思いますか。	44.4

- ・「ふるさと学習」の取り組みを全学年で体系化し、見学・取材活動を通して先人や地域の人々の思いについて調べ、考えたことや自分たちの思いを発信したり、できることに取り組んだりする活動を積み上げてきたことにより、地域を大切にしたいという思いは高い水準にあります。
- ・充実した活動のためには、準備や指導のための時間の確保が課題です。

(4) 校内研究

「よくできた」という回答 (H28 教職員)	
ESD 全般	3.14
国語や学活との連携	3.25
校内研修	2.90

- ・ESD と国語や学活との連携を図り、コミュニケーションスキルの向上をめざしました。
- ・年間通した授業研究（算数・総合学習）の取組や「聞く」→「話す」→「話し合う」活動の充実については、概ねよい評価となっています。

3 今後の取り組み

平成 29・30 年度に海部地方教育事務協議会より研究委嘱を受けました。以下の点も踏まえながら本校がこれまで取り組んできた ESD について研究を進める予定です。

- ・思いや考えを交流し、互いに高めあうことができるよう、引き続きシンキングツール等を活用した話し合い活動の充実を図ります。
- ・コミュニケーションスキルを高めるために、ESD と各教科学習との連携やアサーショントレーニング、ハッピートークトレーニングの実践をさらに充実させていきます。また、価値観に関する話し合い活動を取り入れ、互いの考えを認めていく活動を重視していきます。
- ・ユニバーサルデザインを意識した環境整備に努めます。
- ・児童会を中心に児童主体の人権意識を向上させる取り組みの継続、他者を思いやる気持ちの育成を図る他学年との交流の充実に取り組めます。
- ・地域とのつながりを大切にしたい取り組みをさらに進めていきます。
- ・時と場に応じた言葉遣いができるように、引き続き指導をしていきます。
- ・あいさつ運動の方法を工夫し、あいさつの活性化を図ります。
- ・防災・安全意識を高め、自分の身は自分で守るという児童を育てていきます。

4 学校評議員会の会議録より（※ 学校評価を示し意見交換 平成 29 年 3 月 1 日開催）

- ・子どもが授業に集中できるような環境づくりについて、いろいろ工夫してほしい。子どもの視野の中に気になるものがあれば、気持ちがそちらへ行くのは当たり前という考えが必要。
- ・小さなことに集中できる習慣づけや環境づくりが大切で、これを積み上げていきたい。
- ・子どもの言葉遣いという親からの指摘があるが、子どもの言葉遣いは大人の言葉遣いの裏返しであると考えたい。子どもは親（特に顔）をよく見ている。
- ・行事があれば親は仕事を休んで見に来る。精選を図り価値あるものにしたい。
- ・人権教育は、大人のあり方を示す面もある。教師として大人としての姿を示していくことが大切である。
- ・研究の積み上げは、新学習指導要領の趣旨も取り入れながら進めることが求められる。また、ICT 活用の実例を示したり、UD を具現化したりする機会でもある。
- ・子どもたちの表現力・発表力はどうか。研究を通して磨かれていくことを期待したい。

